
かじ師の外伝集(思いつき)

獅狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かじ師の外伝集（思いつき）

【Nコード】

N5669U

【作者名】

獅狼

【あらすじ】

これは戦うかじ師の本編とは違う
思いつきのそのときに書きたい話を書く
まあ、そんな物ですよ？
短編集みたいな

ネギまで・・・巻（前書き）

思いつきなので、いつも通り期待は無しの方向で見てください。
ノリが命？です

ネギまで・・・壺

1. 〈ネギま〉で大戦時に詠春に自重していない太刀を一本のあげちゃった

「さて、詠春これから戦はより過激になっていくだろう。」

「ああ、そうだろうな。いきなり如何したんだ？」

「そこでだ、お前に俺の打った最上大業物の一本を上げよう。」

「本当にいきなりだな。だが俺は夕凧が有るから・・・」

「まあまあ、もしもの時のために貰っておけ、手首あたり術式書いてしまっけて置けるようにしてやるから。」

「あ、ああ・・・」

「ついでに太刀で銘は断たち、单願刀・断だ。」

「单願刀？聞いた事が無いな、それにしても断たちって、太刀とかかけているのか？」

「まあ、そんな所だ。これを打つに置いて、自分にかなり強力な暗示をかけて雑念を一切消して、一つの想いのみこめて打った刀だから单願刀、他は落ちるがその一つに関しては比類なき力を込めている。」

「どんな刀だよ・・・使い辛くて仕方が無いぞ、なんだよ一つの思

いのみを込めてっ…」

「作成期間は三日間、飲まず食わずの休み無し貫徹、使う金属を選んで混ぜる所から初めて、磨いで鞘に装飾まで一切の妥協無しだ！
」

「よりいっそう使い辛いわ！！」

「込めた思いは《あらゆるモノを断つ刀となれ》、おかげで空間ごと存在を断ち切るから切れないものはまったく無いと思う。使いすぎると世界の修正力に周辺空間ごと初期化リセットされるから・・・多くても二月に一閃にしといてね♪
単願にしたせいで矛盾を薄くする機能が付けなかったんだ。」

「お前は普段どんな物を作っているんだ！何だ修正力って！！」

「ああ、でもココはかなり修正力と言うより問題原を消す力が弱いからそれ程でもないか、半月に一閃で良いよ。」

「話を聞けエエエエ！！！！」

墓守の宮殿にて

「フ・・・フフフ・・・まさか君はいまだに僕が全ての黒幕だと思っているのかい？」

「なん・だと？」

バスッ！！

「ナ、ナギイツ！！！！」

「誰だ！？」

「！？いかんッ」

最強防護！！

パキヤアン

「ぬううつ」

「っラカン！！」

最強防護が一瞬で割れラカンも一瞬の拮抗が限界か！！

「使いたくなかったがつ、単願刀・断イ！！」

ラカンの腕が消し飛ぶギリギリ前に取り出せる。

なけなしの気を込めながら鞘から抜き放ち

そしてラカンの腕が持っていかれるのと同時に砲撃、その空間を断ち切り、残った砲撃が通り過ぎて行く・・・

ポカーン・・・

そんな擬音がしっくり来る状況だった・・・

味方はもちろん敵さんも顔は見えないがポカーンとしているに違い無い。

ただの一振りで人を数回殺しておつりが来る様な攻撃を無効化した

のだから・・・

いや、それじゃない。

まだ残っているのだ、他の所とは違う、まさに何も無いそして別のどこかに繋がっていると言うような矛盾した感じのする、他とは違う何か切れ目のような空間が・・・

そして墓守の宮殿、いや違う周辺の空間自体が僅かにそれで居ながら分かる用に振動しながら徐々にその空間が閉じていく。

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

とりあえず一番元気で動けそうなナギにこの太刀を貸して、あいつをこれで斬って来いと言って治療の方に回った。

俺の判断は間違っていないと思う。ちゃんと使うときに魔力を込めすぎないように行っておいたし・・・もう、楽に成っても良いよね・・・・・・・・。

ラカンの腕の切断面の処置を手伝った後、ふっと意識を失った。

ネギまから・・・式(前書き)

続いてしまった。

ネギまから・・・式

目が覚めたら其処は・・・

コンクリート製の部屋、ドアはなく鉄の棒で通路と仕切られている窓は高い位置に子供でも通れないくらいのおおきさの物が二つしかも内側に仕切りと同じで鉄の棒が着いている。

内装は洋式トイレ、硬そうな折り畳みベッド

うん、

「何で私は牢屋に入れられているんだああ！！！！！！」

「ん？ああ、すまない様式を間違えていたな。詠春は侍だからこつちか。」

檻の向こうから聞き覚えの有る声が聞こえてきたと思ったら

急に足元がコンクリートから畳に変わり壁、窓と順に木製に成り最後に檻が変わり

内装も相應な物に変わった。

うん、立派な座敷牢。

「そうじゃない！！なんで私はこんな所に居るんだ！！というより何だ今のは！！ってかお前か！！私を此処に入れたのは！！！」

そう、私の目の前に居るのは私に単願刀・断を貸してくれた■

■（諸事情により修正されました。）だった！！

「ハァー・・・だってお前、俺の注意、無視して短期間に二度も断を使ったじゃないかしかも一時間すら置かずに使うなんて信じられないよ。でも安心して！！君はちゃんと向こうにも存在しているよ。」

「いや、しかしアレは・・・って、え？」

「言い訳は無用だ

むこうの君は力の一部を失い忒の太刀とかの技が使えなくなっている状態だがしっかり存在している。」

更に これで物語に過ぎた異常は起さないね とつぶやく。

何の話かは分からないがそれより現状を如何するかだ。

「わも「そして違反を起して魔法世界を崩壊寸前に追いやって俺の手を煩わせたお前には玩具に成ってもらう。」・・・どういうことだ？」

「先ずお前は魂の一部を切り出して其処から複製したような存在だ。向こうのお前の魂は修復に二十年かかるだろう。そういう風にやっ

たからな。

そしてお前は危うくあの周辺一体を魔力もクソも無い本来有るべき姿に戻しそうになった。

それは魔法世界を崩壊へ導きかねない現象でもあった。仕方なく俺はそれを秀礼するためにいろいろと苦労をした。させられた

それで、だ。

そんなことをさせたお前には俺もそろそろ作ろうと思っていた宝具の作成を手伝ってもらう。」

「…宝…具？」

「そう、宝具だ。

宝具とは大衆の願いとか想いによって定義された簡単に言うとな強力なマジックアイテムだ。

普通に存在するマジックアイテムには無い神秘という特殊な力を持っている。

神秘は神秘によってしか壊せない。

あるいは膨大な魔力で力づくってのも出来るがそれは、置いておこう。

要するにとある過去に行ってもらい有る武器を使って英雄格に成ってもらう。

なーに一度英雄になった君になら出来ると信じているよ。」

「ちよ、ま」さて、お前に使ってもらうのはこの気刀・礼だな。

この刀は特殊で気によって特殊な力を持つ事が有る。

ちゃんとした担い手に成ってもらうために、ヒントしかやらん。狙ったとおりの物が出来るのもつまらんからな。

ヒントは《忒の太刀を直接》其処から応用してみろ

だ。このヒントから出来る事は基本にして奥義だ。

まあ、頑張れ。」話を聞いてくれえええ！！！！」

「ん？何だ話してみろ。」

「ああ、私はだな「だが却下だ。」まだ何も言ってない！！」

「大方なんか愚だ愚だ言うつもりだろう。しかしお前に拒否権その他もろもろは存在しない！！」

「横暴だ！！！！！！」

「あそこで使わせるといふ選択肢を作った自分を恨め。」

「そろそろ話は終わりだ。」

名前は・・・日本から武者修行に来たって形で良いか・・・

そういうことだ。開始は船の上からだ。

さあ、逝って来い。

本当に逝ってもまたやり直させるから頑張った方がお前のためだがな。

頑張って来い。」

「だから話をッ．．．．．」

続いてしまった

ネギまから・・・式(後書き)

ネタをプリーズ

何処の陣営に着かせよう・・・もしくは傭兵軍

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5669u/>

かじ師の外伝集(思いつき)

2011年10月7日10時29分発行